

5-5. 泥流対策・降灰除去作業

1. 泥流対策

01. 洞爺湖温泉町に二次泥流危険区域を設定した。

国や道、道開発庁、砂防工学の専門家らで組織する「有珠山土砂災害対策検討委員会」(委員長・新谷融北大教授)の第3回委員会が19日、伊達市末永町のホテルロイヤルで開かれ、洞爺湖温泉街を流れる西山川と小有珠川、小有珠右の川の降雨による二次泥流の警戒体制について検討、西山川流域の一部を「避難区域」に設定し、虻田町に設定区分を提言した。同町は今後、関係機関と協議して具体的に決定する方針。

(中略)

「避難区域」は「なかよし橋」から洞爺湖間の西山川流域で、流域から国道230号に沿って、月浦方向に向かった洞爺湖温泉地区の温泉5区と8区の一部とした。『有珠山 - 平成噴火とその記録 - 』室蘭民報社(2000/12),p.271]

02. 板谷川の砂防ダム工事が実施された。

工事名:板谷川災害関連緊急砂防工事1号ダム

工期:2000年12月12日～2001年9月28日

工事概要:1号砂防ダム 鋼製ダブルウオールダム H=8.0m・L=99.0m
道路工 L=248.3m

工事名:板谷川災害関連緊急砂防工事2号ダム外

工期:2000年12月12日～2001年9月28日

工事概要:2号砂防ダム 鋼製ダブルウオールダム H=6.0m・L=73.8m
道路工 L=309.1m

工事名:板谷川災害関連緊急砂防工事3号ダム

工期:2001年3月19日～9月20日

工事概要:3号砂防ダム 鋼製ダブルウオールダム H=6.0m・L=79.8m
道路工 L=100m[『平成12年(2000年)有珠山噴火 - 火山砂防の緊急対応 - 』北海道建設部(2002/3),p.137]

2. 降灰除去作業

01. 除灰作業は、重機を利用することが困難であり、ほぼ手作業により進められた。

特に今回の噴火が77年と異なることとして、前回の堆積物が軽石などの粗い粒子であったのに対して、今回はきわめて細かな粒子であって重機を利用することが困難であり、ほぼ手作業に頼らざるを得なかったという点が指摘されている。[奥田仁「有珠山噴火と虻田町の観光・雇用」『開発論集 第72号』北海学園大学開発研究所(2003/6),p.43]

02. 7月15日に、町民・ボランティアによる洞爺湖温泉街の降灰除去作業「洞爺湖クリーン作戦」が開始された。

降灰被害を受けた洞爺湖温泉街の除灰作業を町民と各種団体総ぐるみで実施する「洞爺湖クリーン大作戦」が15日から、同温泉東側地区で始まった。各地から集まったボランティアも、持参したスコップを手に作業に汗を流した。

既に避難指示が解除されたか、解除の見通しが立っている地域が対象。作業は23日までの9日間行われ、延べ2500人の参加が目標。自衛隊は洞爺湖温泉小学校付近など、カテゴリー(C)2を含む地域の除灰に当たる。[『有珠山 - 平成噴火とその記録 - 』室蘭民報社(2000/12),p.269]

本日から7月23日まで、温泉地区クリーン作戦を開始。町民・開発局・北海道・自衛隊・西胆振消防組合及び消防団・北海道警察・現地対策本部・ボランティアなどが洞爺湖温泉町の避難指示解除となったカテゴリー3の地区で降灰作業を続けた。[『2000年有珠山噴火・その記録と教訓』北海道虻田町(2002/12),p.270]

03. 7月17日に、自衛隊による降灰除去作業が開始された。

有珠山噴火の降灰被害を受けた洞爺湖温泉街の除灰作業を、町民と各種団体総ぐるみで実施する「温泉地区クリーン作戦」が15日から行われているが、17日からは陸上自衛隊員220人も加わった。この日、自衛隊員は洞爺湖温泉小や洞爺湖文化センター、洞爺湖コミュニティセンターなど、洞爺湖温泉地区の公共施設を中心に除灰に当たった。[『有珠山 - 平成噴火とその記録 - 』室蘭民報社(2000/12),p.270]